

# 営農技術情報

－ 畑作（大豆①） －

令和2年 5月 1日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524

JA道北なよろ TEL01655-3-2521

JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

## ～適期は種で初期生育を確保しましょう！～

### 1 土壌改良

根粒菌の働きを活性化するため、排水対策と土壌のpH調整を行きましょう。

### 2 種子消毒

ダイズわい化病は、ジャガイモヒゲナガアブラムシが媒介して発生します。タネバエは、牧草地跡や有機物施用ほ場、土壌水分が高いほ場で多発します。被害を回避するため、種子消毒を実施しましょう。

【表1 豆類のは種前病害虫防除薬剤】

| 対象病害虫                           | 薬剤名         | 使用量                  | 使用時期 | 使用方法 | 回数 |
|---------------------------------|-------------|----------------------|------|------|----|
| タネバエ、<br>苗立枯、斑点細菌病              | 粉衣用ペアーカスミンD | 種子重量の<br>0.3%        | は種前  | 種子粉衣 | 1  |
| アブラムシ類、<br>タネバエ                 | クルーザーFS30   | 種子 1kg 当たり<br>原液 6ml | は種前  | 種子塗沫 | 1  |
| アブラムシ類、<br>タネバエ、ハト<br>苗立枯、茎疫病ほか | クルーザーMAXX   | 種子 1kg 当たり<br>原液 8ml | は種前  | 種子塗沫 | 1  |

※斑点細菌病の発生が懸念される場合は、「粉衣用ペアーカスミンD」を併用する（「クルーザーMAXX」は斑点細菌病に登録なし）。

※殺菌剤を処理する場合は、「クルーザー」塗沫乾燥→「ペアーカスミン」の順に使用する。

### 3 は種 ～は種時期の目安：地温 10℃以上で霜害を回避できる時期～

は種が遅れることで成熟期が10月以降になると、子実が成熟しても茎水分が低下せず、汚粒発生の原因となります。は種は5月中旬をめぐりに開始し、5月25日頃までに終わるようにしましょう。

【表1 栽植密度の目安】

|    | 栽植密度                               |        | 栽植本数（本/10a） |
|----|------------------------------------|--------|-------------|
| 一般 | 畦幅 60cm×株間 20cm<br>畦幅 66cm×株間 18cm | （2粒まき） | 約 16,700    |
| 密植 | 畦幅 60cm×株間 7cm<br>畦幅 66cm×株間 6cm   | （1粒まき） | 約 24,000    |

### 4 施肥

窒素過剰は根粒菌の着生を阻害しますので、適正施肥に努めましょう。

【表2 大豆の施肥標準（北海道施肥ガイド 2015、kg/10a）】

| 低地土 |     |    | 泥炭土 |     |    | 台地土 |     |    |
|-----|-----|----|-----|-----|----|-----|-----|----|
| 窒素  | リン酸 | カリ | 窒素  | リン酸 | カリ | 窒素  | リン酸 | カリ |
| 1.5 | 11  | 8  | 1.5 | 12  | 10 | 2   | 12  | 8  |

### 5 雑草防除

収穫期に雑草が多発していると、汚粒の原因となります。雑草の生育が進むと除草剤の効果が低下しますので、適期に処理を行いましょう。

近年、6月の天候不順により、生育期間中の除草剤散布や中耕が困難となる場合があります。は種直後の土壌処理剤（「フルミオ」等）の散布により、生育初期から雑草の発生を抑えましよう。

【表4 豆類の除草剤】

| 除草剤名            | 対象雑草              | 使用時期                          | 使用量 (/10a) | 回数 |
|-----------------|-------------------|-------------------------------|------------|----|
| ビンサイド乳剤         | シロザ<br>タデ類<br>ハコベ | は種後2～5日<br>(雑草発生前)            | 330～400ml  | 1  |
| フルミオWDG         |                   | は種後出芽前<br>(雑草発生前)             | 5～10g      | 1  |
| パワーガイザー液剤       |                   | 出芽直前～出芽揃<br>(雑草発生始期～<br>発生揃期) | 200～300ml  | 1  |
| フィールドスターP<br>乳剤 | 一年生イネ科            | は種後<br>(雑草発生前)                | 75～120ml   | 1  |

※パワーガイザー液剤は、有機リン系殺虫剤またはイネ科雑草処理剤との10日以内の近接散布は、薬害の恐れがあるので避ける。展着剤は加用しない。

## 6 「大豆間作秋まき小麦栽培」について

大豆の収穫前に後作の秋まき小麦をは種する方法で、連作回避と秋まき小麦は種の作業省力化を図ることができます。実施するには、次の点に注意しましょう。

### <大豆栽培時の留意点>

#### ①大豆のは種は5/20頃までに終える

大豆の落葉が小麦種子の覆土代わりです。そのため、秋まき小麦のは種適期である9月上旬～中旬には、大豆の葉が黄化し始めた状態にしておく必要があります。

#### ②大豆栽培期間中にイネ科雑草の処理を徹底する

大豆立毛中のため、後作の秋まき小麦では土壌処理剤を使えません。

#### ③丁寧な種作業で、大豆の出芽を揃える

大豆で欠株を生じると覆土されないため、秋まき小麦の出芽不良につながります。

#### ④密植栽培とし、着莢位置を上げる

大豆の着莢位置が低いと、収穫時に出芽した小麦の茎葉を傷めるおそれがあります。

#### ⑤培土を高くしすぎない

培土を高くすると、大豆の畦間に小麦種子が集まってしまいます。

### 農薬安全使用

- 農薬は登録内容を厳守し、適切に使用しましょう
- 周辺作物へ薬剤が飛散にないように十分注意しましょう